

第12回 安全シンポジウム

日本鉄道労働組合連合会（JR連合）



JR

日本鉄道労働



第12回安全シンポジウム

より安全・安心な
JR産業の構築に
向けて

社会変容と向き合い職場から
安全の取り組みを検証しよう！

2022年5月12日、岡山市のホテルグランヴィア岡山にて「第12回安全シンポジウム」を開催した。開会の冒頭、福知山線列車事故をはじめとする鉄道事故で尊い生命を失った犠牲者の冥福を祈り、参加者全員で黙祷を捧げた。

2年半ぶりの開催となった今回は「より安全・安心なJR産業の構築に向けて社会変容と向き合い職場から安全の取り組みを検証しよう」をテーマに据えた。JR連合の最重要課題である「安全の確立」を職場においてより一層深めつつ、組織全体が一丸となり鉄道の安全を築く持続性のある取り組みと、ハード・ソフトの両面における安全の検証活動を強化していくことを

提起した。

長期化するコロナ禍においてJR産業は大きな打撃を受けており、今後持続的に成長していくためには新たな技術の活用、業務の仕組みの見直しなど様々な改革が迫られている。そのような中で特に「安全・安心」を軸としたJR産業の維持・発展が今こそ求められている。

今回のシンポジウムには、JR連合の加盟単組および連合・交運労協に集う産別・単組から300人（オンライン含む）が参加。基調講演、単組・エリア連合からの報告、パネルディスカッション、JR連合からの提起などを通じて「安全最優先」の認識を改めて共有した。

主催者あいさつ

安全の確立を最重要課題として 全組合員が共有し JR産業の持続的成長に繋げよう

JR連合は、「安全の確立」を運動の最優先課題に位置付け、福知山線列車事故をはじめとする事故の反省と教訓を胸に刻み、二度と悲劇を繰り返さない決意で活動を展開しているところです。2006年度より「安全シンポジウム」を開催し、この間の取り組みと組合員の努力によってJR産業の安全性は大きく高まったと確信しています。

しかしながら、今なお事故や危険な事象は相次いでおり、昨年1年間だけでも6件の労災事故で8人の協力会社の社員が尊い命を失いました。人命を奪う事故による悲劇は、取り返しがつきません。鉄道産業に働く私たちは、日々自らの命を落としかねない、また人命を奪いかねない危険と隣り合わせで仕事をしています。犠牲になられた皆様やご遺族の立場を想像すると、最前線で働く私たちが、安全確立のためにできることをやり切れているのかという自

問自答をしながら日々の仕事、そして組合活動に臨むことが大切だと実感します。JR連合に集うすべての組合員がそうした思いを共有して、安全確立のために全力を尽くす決意を改めて固めたいと思います。

本シンポジウムでは「より安全・安心なJR産業の構築に向けて社会変容と向き合い職場から安全の取り組みを検証しよう」をテーマに据えました。コロナ

禍によって社会の変化が急加速しています。これからの「ポストコロナの時代」にJR産業が持続的に成長していくためには、労働力不足をはじめとする重要課題に対応しつつ、新たな

技術を積極的に活用して、仕事の仕組みを見直すなど、労使をあげた大胆な変革が求められます。

また、技術系を中心に増加する若手や中堅層の離職を防ぐためにも「働き方改革」や「職場や作業環境の改善」、そして「安全性の向上」を両立させながら仕事や職場の魅力を高め、安全の基盤である「人材の確保と育成」を進めることが急務となっています。

コロナ禍におけるピンチは思い切った変革を進めるチャンスでもあると言えます。私たちは常に安全を最優先に、何よりも「人」を重視して上意下達ではなく、職場で安全確保に第一線で取り組んでいる働く側

からのチェックや提言を通じて主体的に参画し、安全性を向上させながらJR産業の持続的成長に繋げていくことが問われています。そのために労働組合が存在感を発揮して、責任ある役割を果たすことが求められます。

様々な意見や提言をいただき、JR連合としてこれを契機に社会変容に対応した職場からの安全確立に向けて討議を深め、有意義な発信をしていきたいと考えます。改めて安全最優先の意識を全組合員で浸透・共有化するとともに、安全で社会に信頼されるJR産業を作るために、JR連合をあげて取り組む決意であることを申し上げます。



JR連合会長

荻山市郎